

内谷市長の

ゆるやかコラム

「人口減少に負けない
希望が持てるまちを目指して」

冬の寒さも和らぎ、暖かな春が来ました。卒業・入学の季節に新たなスタートをきられた方も多いと思います。小中学校の卒業式では、明るく前を見る卒業生の立派な姿に元気をもらいました。希望あふれる未来に向け今後の活躍をお祈りいたします。

さて、3月、小中学生を対象とした「起業体験ワークショップ」を開催しました。このワークショップでは資金調達の体験として、実際の金融機関の職員の方に協力をいただいています。子どもたちが、金融機関の審査に通るまで何度もチャレンジする姿は頼もしく、挑戦する力が育まれていることをうれしく思いました。また、中高生・大学生から大人まで参加した「長井DXコンテスト」では、14組がファイナルステージへ進み、デジタル技術を活用した様々な起業・創業アイデアの発表がありました。このコンテストは今年2回目ですが、より具体的なアイデアが多く出され、特に若い世代から、すぐにも実現できそうな様々なアイデアが

出されたことが印象的です。

市ではこれら取り組みを通じ、長井に住み続けながら日本中・世界中の人と仕事ができるまちを目指しています。働き方が多様化し、二拠点生活は今後、より一般的になると思われます。そのような時代に、これからの地方のモデルとなるような取り組みを今後も続けてまいります。

市制施行70周年の締めくくりとして、長井市制施行70周年記念事業推進協議会において総括が行われました。参加した団体の皆様からは、特にこどもや若い人たちが中心となつて事業を行ったことが愛郷心を育むことにつながつたと、大変評価していただきました。70周年を契機として、長井市がより元気に活性化すると同時に、市民一人ひとりのウェルビーイング（幸福度）を持続させ、将来に渡つて希望が持てるまちとなるよう、市民の皆様と力を合わせてチャレンジしてまいりますので、ご協力よろしくお願いいたします。